

## 記者懇談会の記録

日時	令和6年4月26日（金）14：00～14：25
場所	岩見沢市役所3階 会議室3-2・3-3
記者数	8人

### 1 令和5年度 工事発注計画について

（市長）

令和6年度の工事発注計画についてご説明します。物価の上昇や原油価格の高騰、円安、さまざまな要因によりまして、さまざまな業種での経営悪化など、市民生活や地域経済への深刻な影響が続くということを大変懸念しています。

このような状況を踏まえた中で、本市では、地域経済と雇用をしっかりと守る、支えていくために、市民生活の基盤となる公共事業に係る予算について、引き続き積極的に確保に努めて、公共工事の積極的な早期発注と契約前払い金の早期支払いを行っています。

今年度発注を予定する工事費ですが、一般会計、企業会計などを合わせて、約45億2,900万円となっています。その内訳ですが、一般会計では、約27億6,400万円、企業会計では、約10億9,200万円、昨年度予算の繰越分が、約6億7,300万円となっております。令和5年度と比較して、6億2,100万円、12.1%の減少となっています。

昨年度と比較しまして、減少の主な要因は、令和5年度は、新庁舎関係の最終年として、約6億4,000万円が計上されており、この額が減少額とほぼ同額となっているところです。

このほか、中段のやや下、「令和6年度の主な発注予定」またその下の※（コメ印）で記載しておりますが、本年度の最重要課題の一つであります、学校施設のエアコンの設置に関しましては、中学校分の予算額、約3億2,000万円は、工事請負費としてこの計画に含まれていますが、小学校と緑陵高校、合わせて約7億2,000万円につきましては、実施時期や財源の関係から、修繕料として予算計上しているため、本計画には含まれていませんので、工事請負費としては減少となりますが、トータルとしては、実質、前年よりはやや多い予算規模となっています。

その他の主な発注予定としましては、市営住宅改修・改築に、約5億1,000万円、小学校改修に、約2億2,000万円、教育施設改修に、約3億5,000万円、上幌5号線道路改良舗装工事に、約1億7,000万円、南光園処理場改築に、約6億1,000万円、といった工事を予定しています。

次に、上半期の工事発注ですが、今年度も地域経済の活性化に向けて、特段の事情がある工事以外は早期の発注を行っていきます。経済への波及効果が発揮されるよう努めてまいりたいと思います。

<質疑応答>

特になし

## 2 その他記者から質問

<質疑応答>

(北海道新聞)

昨日の特別委員会で、新病院の建設予定者の見積もりなども示されましたけれども、これから実施設計の中で具体的に病床数などの見直しも行っていくのかと思うのですが、具体的に病床の利用率も今 50%ぐらいということで、どのあたり、病床数なのか建物のフロア数なのか延べ面積なのか、どのあたりでどのくらいの削減ができるのかという見込み、見立てのようなものが現状で立っているのかどうかお伺いしたいと思います。

(市長)

一つは施設規模の見直しの中で、病床数が先ほどご指摘のあった通り、岩見沢市立病院、労災病院ともに 50%から 55%の間ということで、コロナ禍前までには戻りきっていない。そこで基本計画ベースで考えた病床数を、やはり削減をして、削減をすることによって延床面積も縮まってまいりますし、階層にも影響を与えるかもしれません。それから実施設計に入るわけですが、その中で CM 業務、コンストラクションマネジメント業者の選定も行っていますので、そこから専門的なアドバイスを受けて、さらに詳細な施工内容を詰めていく中で、さらに削減ができるのではないか、できるというふうに考えています。

それぞれお互いのノウハウを、岩見沢市もそうですけれども、総力を結集して、という表現を、昨日の特別委員会でも申し上げましたが、そこを發揮することによって、事業費の圧縮に向けて鋭意努力していきたいと考えています。

(北海道新聞)

もう一点病院関係なのですが、不確定な要素もあって建設コストも増えているということだと思のですが、将来的な借金になることも踏まえて、この額以上には絶対にできない、このくらいに絶対に納めなければいけないという額がどのくらいだと市長の中ではお考えでしょうか。

(市長)

まずは、建設工事関連については約 307 億円を参考価格として提示していますので、その中に収めていきたいというふうに考えています。

また施設規模等々の見直しに伴って、医療機器の整備ですとか、あるいは必要な医療従事者の人員数ですとか、多方面に影響を与えますし、またエネルギー分野でも供給過剰な施設になってしまいますので、そこは ES 事業者も含めてしっかり協議していきたいと思っています。

(北海道新聞)

確認ですが、実施設計の段階で 307 億という数字の中になるべく収められるようにしていきたいと。

(市長)

そこを目指していきたいと思っています。

(北海道新聞)

市長選の動きですが、先日、松野市長も表明されて動き始めているところで、2点伺いたかったのですが、まず、4期目を目指すというところで、多選への批判というのが野党などからも聞こえてくると思いますが、その点についてどうお考えでしょうか。

(市長)

私自身はまだそういうふうにはっきりお聞きしたことはないのですが、長くやればいいというものでもないですし、そこは当然だと思います。ただ、今いろいろ抱えている課題の道筋をやはり次の4年間でしっかりとつけるというのは非常に重要なことだと思っているので、4選に向けての立起表明を4月17日にしたところです。

(北海道新聞)

やはり病院のことも含めてでしょうか。やり残したことというのは。

(市長)

病院のことについては昨日の特別委員会でもご報告した通りなのですが、今現在進行形の中でいかにスピード感を持って方向性を示していくかというのは、やはり重要なことだと考えています。また、この機会を逃すと、という言葉が適切かどうかわかりませんが、岩見沢市の地域医療、あるいは南空知医療圏域内の地域医療が維持できなくなるということを非常に懸念しています。ですから、医療をしっかり確保して維持していく、特に急性期と救急医療がメインになってくると思いますが、そこをしっかり道筋をつけるというのが、今、目下の最重要課題の一つだと考えています。

(北海道新聞)

もう一点、先に出馬表明された方は、市役所の元部下だということで、少し言いにくい部分もあるかもしれませんが、率直な受け止めといたしますか、身内から別な考えを持って出馬表明された方がいるというところはいかがですか。

(市長)

直接一緒に仕事をしたことはありませんが、いろいろな考えを持って仕事をされている中で、出馬表明に至ったということなんだなというふうには受け止めています。

(北海道新聞)

部下としての評価というところはいかがですか。

(市長)

部下と言っても市役所にはたくさん部下がおられますので、何と言ったらいいでしょうかね、係員として日ごろどういうお仕事をしていたかというのは、上司同僚も含めて見ていらっしゃるでしょうけれども、職員評価がどうだったかなどといったことについては、私は詳細を存じ上げてはおりませんが。

(朝日新聞)

一昨日に民間のシンクタンクである人口戦略会議が、消滅可能性自治体という、少しセンセーショナルな言い方ですけども、分類を10年ぶりに更新して発表しました。そこで岩見沢市は前回よりは減少率は改善しているのですが、マイナス51.3%の若年女性の人口変化率が見られるということで、消滅可能性都市に分類されました。それについての受け止めをお聞かせいただけますでしょうか。

(市長)

ちょうど昨日、深川市で空知管内10市の首長会議がありまして、その中でも話題に出たのですが、空知管内10市の中で消滅可能性自治体から外れたのが滝川市、滝川市は若年女性層の減少率が確か49.6%かな。岩見沢市が3.6%改善して51.3%だったかと思います。全体の傾向としてはやはり若年女性層が減る、そういうことで私も皆さんのご意見を聞きましたけれども、ある首長さんは、自然増減と社会増減をミックスして、マトリックスにしているいろいろと評価をされているのですが、ただそれは自治体間の競争を煽るといふ側面が強すぎないかというような意見もありましたし、私もなるほどと思って聞いていました。

それから、日本全体の人口を抜本的にどう増やしていくのかというのは、やはりもっと国レベルでの対応が喫緊の課題だとも思いますし、人口が増えない中で社会増減だけをいろいろと議論していくと、結局近隣とのゼロサムゲームに入ってしまうので、果たしてそれがいい影響を与えるのかどうなのかも思います。

それから更に位置づけとして、ブラックホール自治体というのが出ましたよね。ブラックホール、ある意味東京一極集中という言葉が自治体レベルで置き換えてブラックホールという表現になったんだと思いますが、ブラックホールはますます巨大化していくのではないかというのは非常に懸念をしています。岩見沢市にとっては周辺人口が一定程度あった方が、お互いプラスになるという認識を、私自身は思っているのですが、そういった意味では、より広域的な連携というのにも必要になってくるだろうと思っています。意見はさまざまですが。

ただ一つ、前回よりはポイントの改善したところが出ていますので、特にこども・子育て、4月からまた重点的に取り組んでまいります、その分野も含めて一定程度、特に岩見沢市でいけば、0歳から14歳の転入が増えているということと、その親世代の転入も増えてきているという、そういうプラスの傾向も出ていますので、そういったことをしっかり捉えながら、総合的な対策を組み入れていくということになろうかなと思っています。

(朝日新聞)

もう一点よろしいでしょうか。話題が全然変わりますが、今日、1972年の札幌オリンピックで金メダルを取りました、笠谷幸生さん、日の丸飛行隊で有名になられた方ですが、亡くなられたというニュースが朝発表されたところなのですが、笠谷さんは何か岩見沢市との関わりはなかったかですとか、市長個人的に何か思い入れがあればお聞かせいただけないでしょうか。

(市長)

ちょうど札幌オリンピックのときは自分が中学校3年生くらいだったと思いますが、札幌オリンピック、これは本当に個人的なことですけれど、聖火リレーを各学校から1名という話がありまして、私は残念ながら漏れたのですが、私の大変親しい友人が聖火リレーに参加をして、私自身も大変喜んだという記憶があるのと、それからやはりあの日の丸飛行隊、あの活躍は本当に鮮明に覚えています。自分たちの世代は、例えばお酒の席では、笠井選手のこういうジャンプのスタイルの真似とかクラウチングの真似とか、そういうのが当たり前のようにあった世代になりますから、大変残念に思います。あの活躍ぶりはすごかったです。金銀銅の独占ですし、あれは本当に地元北海道としても大変喜んでいました。

岩見沢市との関連については、私自身よく分かってはいませんが、ただ岩見沢には美流渡地区にジャンプ少年団ということで私設のスキージャンプ台があって、かなり利用されていた時期もありますし、笠谷選手からずっと下がった世代ですが、長野オリンピックの団体で金メダルを取ったメンバーの岡部さん、岡部さんは駒澤大学岩見沢高のスキー部の出身のはずですから、岩見沢はそういった意味ではジャンプにも縁のある地域だったと思っています。

あとその前には、秋元さんがいましたよね。秋元選手は当時の岩見沢商業高校、緑陵高校の前身ですかね、私立時代。ですから岩見沢はそういう優秀な選手を送り出していたこともあった、ということでもありますね。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報係)